

## 佳作 継続は力なり

岡山県 就実高等学校三年 山本 彩加

私は、六歳の時から書道を始めました。五歳の頃から習っていた硬筆の先生のところへ、習い始めたのですが、硬筆と書道は全く違うもので、小さかった私は戸惑うばかりでした。筆の持ち方、硯の置き場所、半紙の表裏、すべてが初めてのことでばかりで不安でしたが、それと同時に、新しいことへの挑戦に、期待を抱いていました。

私が初めて賞をとったのは、いつだったか覚えていません。しかし、初めてもらった賞状と小さなトロフィーがとても誇らしかったのを覚えていています。そして、小学校二年生の時に山陽新聞が主催する生徒新春競書大会に出場しました。競書大会とは、広い場所にたくさんの方が集まって決められた時間までに誰の指示も聞かず、自分一人の力で指定された作品を書き上げるといふものです。私は初めて会場に足を踏み入れた時とても驚きました。自分より年下の子や自分と同年の子が大勢いたからです。当時、私が書道を習っている場所には私と同年の子は一人しかいませんでした。ずっとその子と賞やトロフィーを見せ合い、競い合っていた私はその多さに感動すらしました。その会場にいた人たちはみんな真剣に一文字一文字を丁寧に書いていて、私もその真剣さに影響され、もっと頑張らなければと思いました。それから大会などに作品を提出する度に、その賞とトロフィーが帰ってくるのがとても楽しみでした。賞によって全く形が違うトロフィーをみて、私は去年より小さくなっていたら悔しがり、大きくなっていたら喜び家族に自慢をして来年はより良い賞を取ろうと頑張っていました。

中学校へ入ってから、部活や勉強に追われ

ながらも書道は欠かさずに通っていました。そして、初めて大きな和紙に大きな筆で字を書きました。いつも書いていた半紙とは違い戸惑いましたが、さほど長いとは言えない時間の中で、精一杯練習して書き上げた作品が「日進月歩」で、それが表装されて帰ってきて家の床の間に飾られたことは、照れくさかったですが嬉しかったです。

高校一年生の時に書いた作品は、「福以德招」です。その意味は「福とは心の喜びであり善の心である。日々その心を持って歩めば幸福を招く。」と言う意味なのですが、私はその言葉の意味に惹かれ、この言葉を書こうと決意しました。その作品が中日青少年書法交流協会主催の大会で中日文化賞という大きな賞をとったことはとても誇らしいものでした。

高校二年生の時に書いた作品は「一花開天下春」です。その意味は「一輪の花が、天下に春の来たことを知らせる様。転じて一を聴いて十を知ること。」という意味です。この作品も同じ大会で奨励賞を取ることができました。

そして今年、中日文化賞、奨励賞を取った大会で金賞を取りました。その作品には孟子の残した「愛人者恒愛之敬人者人恒敬之」という文章を書きました。意味が「人を愛するものは他人も常にその人を敬う」という意味なのですが、私はこれを見たとき自分がこの言葉通り行動できているとは自信を持って言えないなと思いました。そこでこの意味のように行動できる人になりたいという思いも込めてこの文章を選びました。

今回頂いた賞は大変大きな賞で、表彰式にも

参加することができました。会場では中国と日本の皆さんの出品した作品が展示してありました。そこにある作品はどれも素晴らしいものばかりで自分の作品がその場に飾られていることが信じられないほどでした。表彰式では中国の在大阪総領事館の方々が来て下さって、中国語で名前を呼ばれ直接賞状を頂きました。そのような表彰式は初めてだったので、恥ずかしいのと同時に本当に大きな賞を頂いたのだなと改めて実感しました。

私はこの一二年間習字をやり続けてきて本当によかったなと思いました。一二年間続けてきたことを自分でも誇りに思い、高校最後にこのような素晴らしい賞がもらえて充実感でいっぱいです。この一二年間書道をやって「継続は力なり」、この言葉を強く実感することができました。これからも何事にも挑戦し、諦めずに努力し続けていけるように頑張りたいと思います。